

2002 年私は会頭に選任され、先ず読んだものは 1998 年に先輩達が心血を注いで作って下さった 103 ページに及ぶ『君津商工会議所基本計画』でありました。

時の英知とかなりの時間をかけてまとめられたと聞いておりましたが、核となる中長期重点事業の指針として①規制緩和によって地域商工業の秩序と伝統を破壊する力を持つ大型店、コンビニに席卷される事態の防波堤となり、経営改善、広域連携、産学官連携の役割をしなければならない②経済のソフト化現象の進展と共に農業・工業・商業は相互依存を構築して「道の駅」等農商工連携して新産業都市を創造しなければならない③インターネットに代表されるネットワーク時代の経済社会に対抗するために会議所はシンクタンクの役目を果たせなければならない④湾内文化圏の観光アミューズメントゾーンに生まれ変わるためにも外房リゾートゾーンの沿道を整備し、湾口道路を建設し 50 万都市を目指すべきである⑤かずさアカデミアパークは世界の技術創造の核として鋭意努力するべきである⑥ 21 世紀は大都市が「故郷喪失時代」となるので、自然に恵まれた我が君津地域は大都市「故郷喪失人」達のふるさととなる素地を十分に持っているので、都市交流を図るべきである⑦アジア諸国にとって日本観光はあこがれの的であるから、羽田、成田空港から横断道路を渡る観光客に豊かな気候、水と緑の森、温暖な果実園の風景などを着目して事業を推進すべきである⑧大きな理想と夢を実現するシンクタンクとして会議所が機能するためにはその目的に向かう叡智を結集し、人々が集いあう場所として会館の建設は急がなければならない…今から 16 年前に策定された 103 ページに及ぶ基本計画であります。まだまだ高度成長期とはいえ、今日を予見した方向が示されており、改めて敬意を表すると共にその後の空白の 10 年に遭遇したとは言え先輩達の先見性に添えなかったとの思いもあります。

私が計画書を読後感として 13 項目記述がありその一つに「ビジョンと言う文字が無い」とありました。私は会頭就任以来「ビジョン」についてこだわって参りました。ビジョンとは幻影、幻想、未来像、将来に対する構想、夢と辞典に書いてあります。全国の会議所のビジョンを前田専務に調べてもらいましたが、県内のほとんどの会議所がありませんでした。空白の 10 年リーマンショック、アベノミクス効果等予測できない時代でした。平成 24 年 11 月、安倍内閣が誕生した時からそれまでの経済書は、私の机からは全部お蔵入りとなりました。私が書き続けた FAX 通信は小さな短期的なビジョンでありました。しかし創立 20 周年を迎えるにあたり、厳しいとは言え経済も明るい方向へ向いて徐々に安定感を感じられてきました。16 年前の先輩達の教訓に改めて敬意と感謝すると共に次を継いでくれる人達が、夢と希望を捨てないで、共に分かち合い、助け合い、多くの市民から愛され、頼りにされるビジョンを皆さんと一緒に画いてみたいと思っております。(君津市民ふれあい祭りご協力ありがとうございました。8 月 24 日小櫃ふるさと祭り(会場：小櫃スポーツ広場)花火が大変すばらしいです！